

年次研修者振り返り

3年次 社会（地理歴史）科 奥田 雅大

3年次は基礎的・基本的な知識・理解、思考力・判断力・表現力等の向上、生徒の学びを個別最適化できる指導力の習得を目標に研修に臨んだ。また、学習習慣の定着に関連して、基本的な生活習慣の定着による生徒の自立を支援する力、適性把握を通して生徒の進路実現を支援する力及び指導の体系化を目標とした。

生徒の学びの個別最適化は、学習意欲の向上とセットで進めていく課題であると考えている。研修や研究授業を通して学習意欲の向上には、「既知・周知の事実である事柄の最新の研究成果や身近な話題の意外な一面を導入や山場に入られること」や「難易度が少し高い課題を達成する場面を用意すること」が重要であると考えている。今回 Microsoft Teams を用いて個人の意見を集めたり、ペアワークの内容を共有したりすることを通して生徒が自身の意見を述べたり、伝えたりすることによって他者に認められる実感を得て学習に前向きになる場面もあった。授業内だけでなく、生徒の進路意識が明確になると学習に意欲的になったり、教員が余裕をもちユーモラスに対応できるようになると生徒の個性を引き出したりすることができ、教員から認められる安心感から学習に取り組む意欲が向上した。

昨年度から「考える授業」作りに取り組んできたが、その核となる部分について整理することができた。ポイントは、①生徒が少し手を伸ばしたら届きそうだと思う難易度、②既習事項が繋がり、点から線、線から面と知識が繋がっていく達成感、③その結果生徒の身近な話題への理解や課題解決につながる内容であることの3つに配慮した課題作りである。以上の3つを踏まえて、初見と思われる資料を用意し、その資料を読み解いていくうえで教科書の太字のような重要語句を使用する課題を作りたい。また、この3つに加えてグループワークの基礎的な授業力としてルールに見える化、役割の明確化、取り組む課題の明確化などもブラッシュアップして継続していきたい。

本校は読解力の育成を目標としている。読解力については、OECDの「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」を参照した。読解力向上の方策として、社会科では新聞記事から必要な情報を取得したり、諸資料を比較して必要な情報を得たりする活動を行った。成果としては、回数を重ねるごとに生徒の回答率や正答率が向上したことが挙げられる。来年度は、前述のとおり資料を読み解くうえで教科書の太字のような重要語句を使用する課題を作成し、実施することで読解力向上に励んでいきたい。